

三鷹市教育委員会 様

校長 鎌田 健吾  
(公印省略)

令和7年度 にしみたか学園 三鷹市立井口小学校 学園・学校評価報告書

標記の件について、下記のとおりご報告いたします。

記

学園評価 ※学園内で統一記述					学校評価 ※学校ごとに記述								
※今年度、明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とする重点課題		※来年度の重点課題を解決するための改善方策			※今年度、明らかになった課題(学校関係者評価を経て記述)		※来年度の改善方策(学校関係者評価を経て記述)						
<p>・小・中一貫コミュニティ・スクールの改定、にしみたか開園20周年に伴う取組</p> <p>①小・中一貫教育の再評価、再確認</p> <p>②スクール・コミュニティのさらなる活性化</p> <p>・自ら考え行動できる児童・生徒の育成</p>		<p>・学園研究を中心に、小・中一貫教育の再評価、再確認を行う。</p> <p>・地域とのふれあい、地域の協力の良さをクローズアップし、教職員にも伝えていく。</p> <p>・児童・生徒代表者会議を中心に、学園の取組に児童・生徒の意見を機会を増やしていく(20周年記念集会、デジタルシティズンシップの取組、アクションプランのブラッシュアップ等)</p>			<p>・小・中一貫教育にかかる乗り入れ充実</p> <p>・特色ある教育に関する目的と方向性の明確化</p> <p>・諸会議の効率的な運用</p>		<p>・乗り入れ担当の教員を厳選するとともに、体育専科、理科専科がより生きるように中学年では体育、理科を教科担任とする。</p> <p>・地域との関わりの多さ、広さから児童の成長と実態の恩恵を言語化し、地域学習、地域連携がより深化していくように、目的と方向性を明確にした特色ある教育の展開をする。</p> <p>・授業力向上や児童、保護者、地域と向き合う時間を創出するため、会議や時程を見直し、年度内で試行を繰り返し余白の時間を創出する。</p>						
	取組項目	今年度の重点目標	成果	課題	改善策	取組項目	学校の経営目標(中期目標)	今年度の重点目標(単年度目標)	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	自己評価			学校関係者評価
										取組	成果	所見	
「人間力」「社会力」の育成	コミュニティ・スクールの運営	<p>・小・中一貫コミュニティ・スクールの取組の意図や目的の共通理解の促進。地域、保護者へのアピール。</p> <p>・地域との交流の活性化。</p>	<p>・年度当初に全教職員に小・中一貫コミュニティ・スクールの説明ができた。</p> <p>・焚火やあささんカフェ、懇談の取組や授業サポートで、教職員にとって地域がより身近に感じられるようになった。</p> <p>・「三鷹の教育」で、コミュニティ・スクールの良さを発信することができた。</p>	<p>・小・中一貫コミュニティ・スクール実施方策の改定に伴い、にしみたか学園でも改めて小・中一貫の再評価、再確認が必要である。</p> <p>・地域からのたくさんサポートに対して、折に触れ感謝の気持ちを伝えていく必要がある。</p>	<p>・来年度、学園研究を中心に小・中一貫についての取組の再評価、再確認を行う。</p> <p>・教職員自身が地域とのふれあいを楽しみ、感謝の気持ちを素直に伝えていくようにする。</p>	コミュニティ・スクールの運営	<p>・地域、保護者の意見を反映させた特色ある学校づくり</p>	<p>・意見や考えが交流しやすい開かれた学校づくり</p>	<p>・あささんネット主催の地域交流に参加し、地域、保護者と教職員の交流を活性化させる</p> <p>・学校HPやメールシステムを活用した、地域、保護者が参加している行事等の周知</p>	3	3	<p>・地域人材との交流が多い。</p> <p>・6年生を中心に地域の方々と総合的な学習の時間の授業展開ができた。</p> <p>・地域から協力の働きかけがあるのが大変ありがたい。</p> <p>・焚火や交流会などでたくさん交流できた。</p>	<p>・より積極的な情報発信が必要。</p> <p>・日常的な学校公開は、開かれた学校を体現することにつながる。学校に来る保護者側の論議もあるが、見られる学校側の論議をいかにするにはできない。公開が監視するような目的ではなく、児童の成長と必要な活動を共に考える機会とすることが肝要。</p>
	小・中一貫教育の推進	<p>・小・中一貫カリキュラム【学園版】の改善。</p> <p>・学園研究で主に特別活動を中心とした話し合い活動の9年間の系統性を構築する。</p> <p>・三校交流、乗り入れ授業の活性化。</p>	<p>・小・中一貫カリキュラムについては今年度の修正はほぼ終了している。</p> <p>・特別活動(2)。(3)について学園で理解を深め、実践することができた。</p> <p>・小・小、小・中での交流が活発に行われた。</p>	<p>・一貫カリキュラムの活用をより促進したい。</p> <p>・築き上げた特別活動の取組を、今後も続けていきたい。</p> <p>・乗り入れ授業の英語講師の確保が課題である。</p>	<p>・研究推進委員を中心に、教員から活用に向けてのアイデアを集める。</p> <p>・特別活動の取組を来年度以降も続けていく。</p> <p>・講師を確保し、乗り入れ授業を充実させていく。</p>	小・中一貫教育活動として	<p>・教職員の異動があっても継続でき、かつ効果が期待できる小・中一貫教育活動の構築</p>	<p>・乗り入れ授業の改善</p> <p>・乗り入れ授業の振り返りと改善計画の作成</p>	3	3	<p>・乗り入れ授業が教職員にとって必要だと納得感をもって取り組めるようにすることが課題。</p> <p>・中学校の体育の先生が小学校に来ていただくのは助かる。</p> <p>・授業や児童対応で、乗り入れにいけないことがあった。</p> <p>・中学校3年生の姿を見ることで、小学校段階からゴールイメージをもつことができる。</p> <p>・改善に向けて計画を作成中という理解をしている。</p>	<p>・何を目的として小・中乗り入れを行うのかについて、目的の共有が必要。</p> <p>・今回、論点が明確になったことは評価できる。</p>	
	知・徳・体の調和のとれた教育活動の充実	(知) 確かな学力	<p>・主体的・対話的で深い学びの推進。</p> <p>・個別最適な学び、協働的な学びの推進。(ICTの活用、授業のUD化等)</p> <p>・三鷹市小・中一貫カリキュラム、教員同士の学び合い、学園研究の取組による授業力の向上。</p>	<p>・学園研究の特別活動を中心とした話し合い活動の取組は、他教科の話し合い活動にも良い効果をもたらした。特に中学校の研究授業では、いくつかの教科の話し合い活動を特別活動の視点で追究することで、教科を横断して特別活動的な視点をもつ大切さを学園内で共有できた。</p>	<p>・学園内で授業を見合う風土づくりに着手した。少しずつ学校の枠を超えて日常的に学び合う姿が見られるようになったが、まだ、十分とは言えない。</p> <p>・UDについて学園内で工夫を共有する機会が少なかった。</p>	<p>・1学期から積極的に各校で行われる授業の紹介をし、学び合いの機会を増やしていく。</p> <p>・自校以外の学校に行った際には、各校のUDの工夫などを確認するようにする。</p>	(知) 確かな学力	<p>・基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより様々な問題に積極的に対応し、解決する力をつける</p>	<p>・自ら考え行動し、自ら未来を切り拓いていく子どもたちを育成するための授業改善</p>	<p>・管理職による授業観察と、小・中一貫カリキュラムを活用したフィードバックを行う</p>	3	3	<p>・問題解決的な学習を中心に探究する機会が増えた。</p> <p>・教員間の授業を見合う機会を増やす取り組みをした。</p> <p>・教職員間で授業を見合う機会があった。</p> <p>・日々の授業改善は欠かせないよう意識していた。</p> <p>・補習が実質、課題が終わらない児童のための時間になっており、学習の補填が必要な児童にまで手が回らなかった。</p>
(徳) 豊かな心	<p>・話し合い活動の推進。</p> <p>・いじめの早期発見、早期解決。</p> <p>・デジタルシティズンシップ教育の推進。</p> <p>・非認知能力の育成。</p>	<p>・話し合い活動の研究や、自ら考え行動する機会づくり(委員会、クラブ、部活動など)を深めていくことは、クラスづくり、学年づくり、学校づくりにつながった。</p> <p>・アクションプランの目標設定や振り返りも、子どもの主体性を育むことにつながっている。</p>	<p>・学園での特別活動の研究は今年度で終わりに。培ってきた話し合い活動の力を来年度以降も持続させることが課題。</p> <p>・デジタル・シティズンシップについて、各校ごとの取組は進んだが、学園内で共有する時間が取れなかった。</p>	<p>・特別活動の取組を今後も丁寧に続けていく。</p> <p>・デジタル・シティズンシップの取組を学園の児童・生徒で話し合う機会を年度当初に計画する。</p>	(徳) 豊かな心	<p>・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を育む</p>	<p>・人の役に立つことに喜びを感じ、実践につなげられる子どもの育成</p>	<p>・まちづくりプランナーによる授業実施と発展</p> <p>・日常的なあいさつの奨励</p>	3	3	<p>・あいさつについては、学園のあいさつ運動のやり方を変えないといけないと思う。まずは「気持ちのいいあいさつ」を心がけたい。</p> <p>・学級経営で取り組んでいること、語っていることを共有したい。</p> <p>・道徳、特活、総合、学芸会などを関連させて取り組むことができた。</p> <p>・高学年の「井口の太陽」「井口の月」という役割が、子どもたちの他者を思いやる心の醸成に大きく寄与していると思う。</p> <p>・自分から気持ちよい挨拶ができる子が増えてきている。</p>	<p>・できていることはもっと高い評価をつけてもいいのではないかと考えている。</p>	
(体) 健康・体力	<p>・体力の向上</p> <p>・基本的な生活習慣の確立</p> <p>・食育の推進</p>	<p>・体力向上、基本的な生活習慣の確立、食育の推進に向けての取組は、各校それぞれの担当が中心となり進んでおり、児童・生徒の意識は高まっている。</p>	<p>・各校の取組はそれぞれ進んでいるが、学園内で情報交換やノウハウの共有が少ない。</p>	<p>・各校の担当で、それぞれの取組やノウハウの共有を行う工夫をしていく。特に地域と連携した取組については積極的に情報交換を行う。</p>	(体) 健康・体力	<p>・たくましく生きるための健康や体力を、生涯かけて自ら考え実践する素地を作る</p>	<p>・自分の体力、健康を向上させる意欲の醸成</p>	<p>・体力調査を分析し、体育の授業改善に生かす</p> <p>・運動週間を活用し、「目標」、「チャレンジ」、「振り返り」を日常的に循環させる</p>	3	3	<p>・外で遊ぶ機会が少ない。</p> <p>・普段の体育でおすすめの運動を校内で共有できるといい。</p> <p>・学校全体での取り組みが充実している。やらされているという意識の児童は少なく、楽しんで自ら取り組んでいる様子が目立った。</p> <p>・運動が得意な児童と苦手な児童の差が大きい。</p> <p>・地域のスイミングスクールを活用できないか。</p> <p>・学校全体の取組は実施計画を職員間でしっかり共有できてきた。教職員の前向きな姿勢が、児童に伝わっている。</p>	<p>・夏の運動量確保については、学校の施設含め社会全般が猛暑対応になっていない。学校だけでは難しい。</p> <p>・運動週間の取組と児童の参加意欲について、もっと高い評価をつけてもいいのではないかと考えている。</p>	
特色ある教育活動(その他)	<p>・キャリア・アントレプレナーシップ教育の推進</p> <p>・自ら考え行動し、未来を切り開いていける子どもの育成</p> <p>・子どもの居場所づくりの推進</p>	<p>・キャリア・アントレプレナーシップ教育については、地域のアイデアも参考にし、子どもたちに職業だけでなく、大人になってからの生き方全般について考えさせられる良い機会となった。</p> <p>・子どもの居場所づくりについては、小学校2校の放課後開放が週5時間となり、順調に利用が伸びている。</p>	<p>・児童・生徒代表者会議について、十分な時間がとれておらず、意見を生かす機会が少ない。</p> <p>・キャリア・アントレプレナーシップ教育については、9年間を見通した内容のブラッシュアップ、取組の意義についての教員間の共通理解が必要になる。</p>	<p>・児童・生徒代表者会議については、オンライン開催も含め、年度当初に年間予定を作成する。</p> <p>・カリキュラムの改善を行う中で、キャリア・アントレプレナーシップ教育を再構築していく。</p>	特色ある教育活動	<p>学校3部制における1部と2部の連携強化</p>	<p>地域教育力の積極的な活用</p> <p>定期的なヒアリングによる地域未来塾の課題把握と改善案の検討</p>	3	3	<p>・本校の特色が見えない。</p> <p>・未来塾が何をしているのか、知る方法を増やしていきたい。</p> <p>・フレンドや未来塾があるおかげで、放課後の居場所づくりや子ども同士の関わりが広がりととてもよい。</p>	<p>・特色を「地域連携」というキーワードだけでとらえようとするのは見えずらくなくなる。地域との関わりの多さとそのうえで子どもたちの良さを教育活動に生かしていくこと。キーワードだけではなく、ナラティブにとらえることが重要。</p>		
喫緊の課題	<p>維持向上を目指す学校教育の質の向上</p> <p>維持向上を目指す学校教育の質の向上</p>	<p>・退勤目標時間の設定、ノー残業デー等の設定</p> <p>・タイムマネジメント能力の育成</p> <p>・働きがい、働きやすさを念頭に置いた改革</p>	<p>・学園の関わる会議にオンラインを取り入れたり、チャットを活用して情報交換をしたりすることで、会議の負担感を軽減することができた。</p> <p>・働きがい、支え合う職場づくり、地域・保護者のご協力もあり、働きやすい環境づくりは各校で進んでいる。</p>	<p>・人材不足の傾向は続いており、各校に影響が出ている。</p> <p>・教師の取組成果を十分に可視化できていない。</p>	<p>・人材については、早めの把握、対応を心掛け、他校とも情報共有を行う。</p> <p>・教師の取組について、成果のわかるものは提示、紹介を積極的に行う。</p>	働き方改革	<p>・時間外勤務が月平均4.5時間以上の教職員数を0にする。</p>	<p>・諸会議の時間は30分以内、職員夕会(打合せ)を10分以内とする。</p> <p>・会議、打ち合わせの運営方針を作成し、方針順守を徹底する。</p>	3	3	<p>・帰宅時間が早まった。</p> <p>・残業したくてしているのが、仕事が終わらないのかを整理したい。</p> <p>・会議は情報が多く、何が重要なかわからないことがあるため、重要なことは何かを整理して伝えてもらいたい。</p> <p>・配慮が必要な児童の対応等、必要なことにはしっかりと時間をかけていきたい。</p> <p>・会議の時間が短くなるのはいいが、自分自身の働き方を改善する必要がある。</p>	<p>・必要なことには時間をかけたいということが論点になっていることは評価できる。</p> <p>・学校の努力だけでは難しい。頑張った仕事をしたいことが評価されないことは、いかなるものか。</p>	